



土木学会創立 100 周年記念事業

東日本大震災学術調査成果普及講演会（函館市）

ご案内

時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、この度、土木学会北海道支部では土木学会東北支部と合同で標記講演会を開催することといたしました。

本講演会は、土木学会東北支部、日本建築学会東北支部など7学協会東北支部の合同学術調査委員会が震災後2年の歳月をかけて行った調査の成果を、土木技術者、行政担当者等に分かりやすく説明し、今後の災害への備えに役立てて頂くことを目的としています。

時節柄ご多用の折とは存じますが、皆様方多数のご出席を賜りたく、ご案内申し上げます。

日時	平成 26 年 10 月 18 日（土） 14：00～
場所	函館工業高等専門学校 大講義室 （函館市戸倉町 14 番 1 号 TEL：0138-59-6300）
内容	裏面のプログラムをご覧ください。
お申込み	特に必要ありません。
参加費	無料
お問い合わせ	土木学会北海道支部タスクフォース部会事務局 本間 TEL：011-801-1590（株式会社ドーコン技術情報部）

※当日、函館工業高等専門学校では学校祭が開催されています。

※本講演会は CPD 対象です。

※本講演会では報道機関及びメディアによる取材、収録等が行われる場合があります。

主催：公益社団法人土木学会北海道支部・公益社団法人土木学会東北支部
共催：函館工業高等専門学校
後援：国土交通省北海道開発局函館開発建設部、北海道渡島総合振興局、函館市、公益社団法人日本技術士会北海道本部

土木学会創立 100 周年記念事業

東日本大震災学術調査成果普及講演会（函館市）

プログラム

日時：平成 26 年 10 月 18 日 14：00～

場所：函館工業高等専門学校

大講義室

1 開会のあいさつ（14：00～14：05）

函館工業高等専門学校長 岩熊敏夫

2 講演（14：05～15：50）

※各 30 分程度の講演

①講演タイトル「津波の特徴と海岸・河川における被害の概要」

講師：東北大学・教授 真野 明

<概要>

2011 年 3 月 11 日、Mw9.0 に伴って発生した津波は、東西 200km、南北 500km の広大な波源域を有し、北海道から千葉県にいたる海岸に顕著な高さで伝播し、三陸海岸で 40m の痕跡高を記録した。最初に津波の特徴を述べ、これによって発生した、防波堤、海岸堤防（防潮堤）、河川堤防などの土木構造物の被害を概説する。

また、陸上に侵入した津波は多くの人命を奪い、家屋を破壊し、大量の土砂を堆積させた。家屋の流出や火災の特徴、津波堆積物などがれき発生の特徴を、新しい統計データを加えて解説する。最後に、復旧と復興に向けた課題について触れ締めくくる。

②講演タイトル「東日本大震災の初動対応と課題」

講師：一般社団法人東北地域づくり協会 専務理事 金内 剛

<概要>

東日本大震災で社会インフラを管理する国、自治体、民間インフラ事業者、建設関係団体・業界の関係者がどのような初動対応をしたかを紹介する。これらの建設関係者は自らも被災し、人員、資機材、燃料、水・食料などあらゆる物が不足するとともに電気、水道、情報通信、輸送路などのライフラインが途絶するなどの厳しい制約条件下において、あらゆる手段を駆使して最善の対応をした。その実体験に基づき得られた貴重な経験と教訓を抽出し、今後の大規模災害対応に向けての課題を取りまとめて報告する。

③講演タイトル「宮城県の上下水道の被害・復旧状況と水辺環境の再生復興について」

講師：東北大学・准教授 後藤 光亀

<概要>

水道被害と復旧過程から、施設・管路の耐震化の効果、盛土・切土の境界付近での管路被災の再発、水源の多元化の必要性、幹線のループ化、地盤沈下による復旧の遅れなどの課題を整理する。下水道被害と復旧過程からは、沿岸域の終末処理場での津波被害の形態や、市街地から処理場までの自然流下システム、簡易消毒のみの外洋への直接放流の意義などを考察する。また、仙台湾岸の干潟の生態系の被災・再生状況や、湾岸域の日本一長い運河群の再生やまちづくりに関する水辺環境の復興の取り組みの現状について話題提供する。

3 閉会（15：50～）